

建設功労大臣表彰

「大工塾」設立し職人育成

安田信夫 県優良住宅協会代表理事



2020年度の建設事業関係功労国土交通大臣表彰に、富山県優良住宅協会代表理事で頼成工務店元社長の安田信夫氏が選ばれた。長年にわたり建築工

業に精励するとともに、関係団体の役員として地方業界の発展に寄与した功績が認められた。受賞については「一人で仕事をしき

たわけではないので、周囲の方々のおかげだと思っている」と謙虚に受け止める。頼成工務店では、いち早く県産材を使った家づくりに取り組んできた。「自然の中

「工務店の差別化、連携を」

んできた。「自然の中で体感できることを家に持ち込めないか」との考えからだ。さらに県産材の活用は「地域の自然環境を保全し、地域で経済や資源を循環する社会の形成にもつながる」と強調する。県優良住宅協会では1996年ごろから

な役割を担った。2016年に同協会会長に就任。18年には一般社団法人に改組した。県産材の活用とともに力を注いだのが、大工職人の育成だ。17年に次世代の職人を対象とする「大工塾」を立ち上げた。「技術の向上はもちろん、営業

力やコミュニケーション能力を高めることが目的。お客様の声も聴けて、自分の長きもきちんと発信できる人材を育てたい」と意欲を見せる。今後の業界について「同じ工務店でも、どう差別化を図っていくか」とともに、「工

「地域型住宅とは」「富山らしい住宅とは」「どういふものかと勉強会を始めた。この中で、地元の木を使おう、大工がくる家づくりを進めよう」となった。それがハウスメーカーに対抗できる手段だった」と振り返る。自身はこの勉強会で先導的

務店同士の連携も大事になる」と見ている。「各工務店の特長を活かしながら、グループで動いた方が集客しやすい」という利点もある。さらに人口減少が進み、住宅着工数も減少することが予想される中、国が打ち出した公共施設の木造化に活

路を見出す。「会員をグループ分けするなどして、受注できる体制づくりを進める必要がある」との考えだ。後進には「自分に自信を持ってほしい。『失敗は成功のもと』なので、結果を恐れず、どんどんぶつかってほしいね」とエールを贈る。

◆ ◆ ◆
やすだ・のぶお 1953年生まれ、67歳。98年に頼成工務店2代目社長に就任。今年、会長職を退職。富山県優良住宅協会会長は3期目に入った。「家づくりは家族づくり」が信念。趣味は登山、薪づくり。自家製醤油にも精を出す。富山市婦中町在住。